

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます

2008年1月

良い新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。

早いもので治らないリハビリは間違っていると考え、リハビリの研究を始めて、20年になりました。40歳で決意し、高齢社会の諸課題を解決するための切り口に、リハビリで自立生活可能になることをお知らせすれば、研究は完結し、また政治活動に戻れると考えていました。

しかし研究が進めば進むほど、施設や家族にとっての「寝たきり老人」の経済性の高さが、「寝たきり老人」を生んでいることを知りました。またリハ医学の「障害の受容」哲学がこれを促進しているように思われました。社会全体の構造の問題だったのです。

その根底には「官や組織への依存」を常識としている私たち自身の生活スタイルもあります。国の1千兆円の借金は返さなくて良い借金ではないのです。結果として次世代へのツケになり、やがて負担できない日が来るのです。こうした事に気付いた大学生が「ABAS」という会を作って学生活動が始まりました。去年は講演する事で、お手伝いしました。

今年はこの講演を纏めた本「団塊世代にパラダイムシフトを問う」を出版します。具体的な政治活動へは戻れませんでした。この20年間、更に言えば市会議員・政治活動を志した時以来の社会への40年間の私の提言・アプローチを纏めることができました。

出版は2月半ばごろの予定です。新聞・テレビにも取り上げられている失った機能を取り戻すことが可能な、私達のすすめるリハビリは、常識になっている介護を受けることを、自立生活する補助に変えることができます。そして、自立生活できることは自立生活を求められる事です。その事が次世代の負担を軽くします。

そして持続可能な社会が作られると信じています。NPO法人高齢市民が活躍するための社会技術研究会も発足し、今年からそうした視点で、活動に取り組む決意です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

NPO法人高齢市民が活躍するための社会技術研究会 理事長 滝沢茂男